

ウォーキングで若さにふれる (年取るといふこと日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子
amhotm@gmail.com <https://docl.jp>



2021/06/18

コロナウィルスパンデミックが2年間も続いている。テレワークと在宅時間が多くなり、おすもうさんのようにお腹がふくらんでメタボの3、40代の男性を以前より多く、ウォーキング中に見かけるようになった。ところが今朝9時近くに川沿いの道路を渡るとき、黒半そでTシャツと黒タイツをぴしっと身に着け、ブルーに光るサングラスに野球帽をかぶり、長身ではないが、スレンダーで姿勢よく大股で走る、テレワークをしてそうな若者が目の前をさっそうと通り過ぎた。その後ろ姿をみつめると、初夏の日差しの中、吹き抜けるそよ風のように、さわやかさが駆け抜けた。「ありがとう、頑張る若者よ」。

2021/06/23

ユーモラスな光景

朝8時台、自転車に乗った若い女性が駅に向かっていく。

ブルーのブラウスの両袖が向かい風でふくら膨らみ、紺色のひだのある薄手のパンツも左右にふわっと膨らんで、風船が自転車を漕いでいるよう。イメージ浮かびました？

2021/09/11

裏通りの斜めになった十字路の角に面してシャッターを開いたままの一軒家。以前は年配の男性が洗濯物を玄関先に干したり、出入りしていた。この一年ほどみかけなくなり、洗濯ものも干していない。夏前に若者の衣類が干してある。自転車を停める息子さんらしき若者を見かけ、お父さんの代わりに越してきた様子。ところが今朝、なんとピンクのレースの女性下着が干されている。今日は土曜で恋人が泊りにきたのだろうか。この先が楽しみ。

2021/09/15

広い道路の向こう端を白く長い2本の足が歩いている。まず目に入ったのはまぶしいほどに白くすっと伸びた美しい脚。ジーンズ布の一分丈ショートパンツは紺色で素足の白さが映える。170cm近いスレンダーな身長でショートヘアの顔は小さく、8等身が際立つ。さっそうとすいすい歩く様子は、今はやりのスマホのカメラに撮って他の人に見せたいほど。ああ、一瞬の理想郷。

2021/09/16

近くの寺院と大きな墓地の裏手に民家をデイサービスに使っている施設がある。その横は人ひとり通れる細い路地。家の中からヘルパーさんらしき若い女性の声が聞こえた。「100歳超えてるんですから…」と言いつつ聞かせている。すると年取った女性の声で「はい、はい」と元気な澄んだ返事。笑顔で答えている100歳のおばあさんの顔がうかぶ。若者は年寄りのお世話とルールを守ろうと一生懸命。彼女の7、80歳も年上の人生の先輩、教えてもらえる話は山ほどお持ちだろう。そんな時間も日課に組み込まれているのだろうか。と小道を通り過ぎる老女。(千葉県市川市CLインストラクター)